

2014年1月以降に当センターにおいて

病理解剖をお受けになった患者さんのご遺族の方へ

(1) 研究の概要について

当センターでは「慢性炎症が精巣機能に及ぼす影響の検討」というテーマで研究を実施しております。中高年男性における更年期障害は加齢男性・性腺機能低下症[Late-onset hypogonadism (LOH)症候群]と言われており近年認知度が上がっています。男性ホルモン(テストステロン)の低下を背景に全身倦怠感、性欲低下、筋力低下、集中力低下、不眠など多彩な症状を引き起こすことが知られています。また、高齢者では加齢に伴う免疫系や内分泌系の変化など多様な要因で全身性の慢性炎症が生じやすいことも知られています。しかし、中高年男性の性腺機能低下と慢性炎症との関連はほとんど知られていません。

本研究は、当センターで施行された病理解剖例の精巣組織や生前の診療・入院時データを用いて、慢性炎症が精巣機能に及ぼす影響について検討する予定です。具体的には2014年1月以降に東京都健康長寿医療センターで病理解剖された方が研究の対象となります。

病理解剖のご承諾の際に医学研究へのご協力にもご承諾いただいておりますが、改めて研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を承りますようお願い申し上げます。

この研究への協力承諾の撤回を希望される場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「慢性炎症が精巣機能に及ぼす影響の検討」「承認番号：第〇〇番」（〇〇は承認後に記入）

研究期間：承認後～令和10年3月31日

研究責任者（所属・職名・氏名）

東京都健康長寿医療センター 研究所・老年病理学研究チーム 研究員 野中敬介

研究分担者（所属・職名・氏名）

東京都健康長寿医療センター 病理診断科・部長 新井富生

同研究所・老年病理学研究チーム・研究部長 石渡俊行

(2) 研究の意義・目的について

慢性炎症と高齢男性の性腺機能低下の関連を調べるのが本研究の目的です。本研究により両者の関連が示されれば、慢性炎症を示す中高年男性をスクリーニング検査することでこれまで未治療のLOH症候群患者をより多く発見し治療に繋げられる可能性があります。

(3) 研究の方法について

2014年1月から2024年8月の期間に東京都健康長寿医療センターで施行された連続剖検の男性患者361例の精巣組織を対象とします。そのうち、生前の血液データを確認できる男性症例の精巣組織で精巣機能低下(精子細胞の消失など)の有無を評価する予定です。ただし、悪性腫瘍に対する化学療法もしくはホルモン療法歴がある症例、先天性発達障害がある症例、精巣に病変がある症例は除外します。また、糖尿病による高血糖状態が精子形成を阻害する可能性があるため糖尿病腎症を確認できる症例も除外します。

(4) 資料の保管と、他の研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、患者様の個人情報が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。他の研究への利用はありません。なお、研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後、5年間保管します。保管責任者は研究責任者とし、保管場所については東京都健康長寿医療センターの所定の場所で、厳重に保管します。

(5) 資料の入手または閲覧、開示

本研究の計画や方法についてはご遺族の希望に応じて、資料の要求または閲覧ができます。本研究の結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者とその旨をお伝え頂ければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲で、研究結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報を含む場合には、資料の提供または閲覧はできません。

(6) 問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チーム 野中敬介
〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2
電話 03-3964-3241 内線 4415 (PHS 62241) (平日 9:00~17:00)